
オールロワイヤル

八石マムミラー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オールロワイヤル

【Nコード】

N7884F

【作者名】

八石mamミラー

【あらすじ】

ある日、涼宮ユウヒは全世界から数々の情報を集め、沢山のキャラクター達を1つの会場へと固めた。その人達を沢山殺し、世界を救う究極の兵器を完成する為の生贄にするべく、バトルロワイヤルを開始した。

プロローグ（前書き）

この小説は平気に人が死にます。

それに血が出たりとてもグロイ小説になる可能性が高いです。
人殺しを専門にする人だって存在します。

プロローグ

アタシは目覚めた・・・・・・・・

知らない場所にいた。

あたりを見渡すとかがみん、つかさ、みゆきさん、ひよりん、みさきちなど学校の友達も全員いた。
でも、何かおかしい。

何故、こんなに暗い場所、見たことが無い場所。

ユウヒ「ようこそ、僕たちのバトルワールドへ」

一人の少年が現れた。

黒いコートとフードを被っていた。明らかに怪しい感じがした。

こなた「アタシたちをどうするの？」

アタシやその他の人はあの少年へと聞いた。

ユウヒ「お前達には殺し合いをしてもらう……」

殺し合いだって!?

そんな物騒な事を……

柿崎「なつとく出来るかぁーーーー!!!!!!」

一人のゴリラっぽい男があの子少年へ向かって攻撃を放とうとした。
さすがにこういう口ワではこういうように襲う人もいて欲しい所だ

もんね。

ユウヒ「逆らおうと思う者は、こうだ！……！」

ゴリラ男の首輪が点滅した。

一瞬のうちにゴリラ男はオレンジ色の水溜りのような状態になった。人の形を失ったというわけ。

ユウヒ「人はだれしもA・T・フィールドを持っている。それがなくなればヒトの形を保てず生命のスープ（オレンジ色の液体）となってしまう……」

アタシの隣にいたつかさは震えだした……

ユウヒ「ククク…、那遊ちゃんを実験台として殺してみますね！」

あの少年は那遊ちゃんと呼ばれたピンク色のツインテールの女の子に包丁で貫いた。

那遊ちゃんと呼ばれた少女は口と腹から血を流し、死に絶えた。

ユウヒ「いい忘れていたけど、僕の名は涼宮^{すずみや}ユウヒだ。ハルヒと同じ涼宮と言う苗字だ！……！」

こなた「ハルヒに似ている名前じゃんww」

ユウヒ「この殺し合いで生き残った人1人は元の世界に戻してやる。それに願いを1つだけ叶えてやる。（ククク、ソレスタルビーイングを倒す為なら誰でも生贄にしてやる……）」

ユウヒの最終目的はソレスタルビーイングを倒す為の最強ロボット

を完成させるために大量の人を生贄にする事である。
そのために、このバトルロワイヤルを開催する事に決意したのである。

ユウヒ「最後に全員に支給品をあげよう。無限に物が入るディバツクだ。必要最小限の物に1つ、3つランダムで武器などが入ったランダムアイテムだ。

ランダムアイテムに強い武器とか回復アイテムなどがあつたらいいけど、なくても頑張つてほしい。では、お前ら全員を転送する」

参加者達はその後、巨大な闇に包まれ、そして光となった。

参加者達はばらばらに飛び散っていった。

バトルロワイヤル、開始！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！

【柿崎速雄@超時空要塞マクロス 死亡】

【燈火那遊@オリジナルキャラ 死亡】

ブローグ（後書き）

出来るだけ、パロディなどは少なく、オリジナルに作っておきます。

小さなオタク少女達

ここは草が生い茂っている平地。草原。

ここに横たわっている女の子。青いロングヘアーに癖毛、眼は眠そうに半分だけ開いていてエメラルド色。

かなりの美人な所もあり、泣きボクロもあった

洋服は薄めの赤色のセーラー服であつたが、背の高さは小学生並だつた。

こなた「あつ……………」

アタシは泉こなた。主催者の生贄と言う形でこのロワイヤルに参加させられてしまった。

涼宮ユウヒとか言う人の所為でこんな所に来てしまった。

7

アタシは普通の女子高生。スポーツ万能だが、嫌い。かなりのオタクだが、どんなゲームをやっていたか、どんなアニメを見ていたかは曖昧。

ギャルゲーやエロゲーを見ていたことは確かだけど……

こなた「支給品は何だろうな」

アタシは支給品を開けてみた。

その中には3つの草が入っていた。草にゼロハンテープがついている紙があつた。

草の名前はメダパニ草と呼ばれているもの、ラリホー草と呼ばれている物、そして目つぶし草だつた。

こなた「草ばかりじゃん、意味わからないしー」

メダパニとかラリホーとかの意味は全く分からない。

目つぶし草は恐らく相手の目を見えなくする。時間的にみてずっと失明させるのか5分程の効果かはわからない。

だが、強敵が出現して襲ってきたら、使ってみる価値はありそうだし…

アタシが探索していると一人の女の子がいた。

金髪のツインテールにツリ目。恐らくツンデレ少女だと思われる。さらにアタシよりも背が低い。小学生の可能性が高いと思われる

アタシはその女の子に近づいた

ナギ「お、お主は誰なのだ？」

その女の子は話しかけた。

こなた「アタシは泉こなた。あなたは誰ですか？」

アタシがあの子に名前を言うと、
すんなりと話してくれた。

ナギ「私は三千院家の三千院ナギだ。こう見えても13歳だぞ」

この女の子も年齢の癖に小さいのか、アタシと一緒にいうわけだねえ。

どんな女の子だろう…

こなた「アタシは18歳のオタクだけど、ナギちゃんって何処の中学生なの？」

アタシはナギにオタクと言っのを話した。
ゲーム好きな事、アニメ好きな事なども話した

ナギ「私もゲーム、アニメ大好きなのだ。お主、気が合うな。よし、私の部下にしてやろう」

三千院ナギはかなりのお金持ちであり、性格も素直になれない。仲間になりたいのをそんな言葉にしたようだ。

アタシはナギを仲間にいれ、主催者を倒すために進んでゆく

【泉こなた@らき すた】

「状態」：健康

「装備」：

「道具」：デイバック、支給品一式、ラリホー草、メダパニ草、目つぶし草

「思考」

主催者を絶対に倒す。

- 1．主催者を倒すために努力する
- 2．死にたくない
- 3．ナギを守る

【三千院ナギ@ハヤテのごとく！】

「状態」：健康

「装備」：

「道具」：デイバック、支給品一式、不明支給品1、3

「思考」：

- 1．こなたについてゆく
- 2．ハヤテ、マリアなどを探す

かがみんVSカイン 竜騎士の戦い（前書き）

今回はFF4の竜騎士が登場します。

かがみんもFF4の竜騎士っぽい戦法でいくらしいです。
お楽しみに。

かがみんVSカイン 竜騎士の戦い

私の名前は柊かがみ。35年間ずっと生きていた人間。

友達達はみんな、私よりも成長して大人になっていくが、私は高校生
の体格のまま。

知能はその時以上にあがり、戦闘力もあがったが、私のある力の所
為で不幸になってゆく

恐らく、ツンデレのジンクスに生活中にはまり続けた事だろう。

私は何回死んだことが…

おかげで復活スピードもどんどん遅くなっていき、
安静にしている10分ぐらいは復活まで時間がかかるだろう…

柊かがみ「主催者が…私は願いをかなえる、その為ならどんな事も
してやる」

私の願い、それは、この体。不死者から解放され、普通の人間にな
る事。

私は不死者。年もとらない。首を切断されない限り死ぬ事は無い。

私は手に血を染めようともし、構わない。普通の人間になれるならば…

それと私は無敵といっても天敵はいる。

アイザック・ディアン、ミア・ハーヴェント、ラッド・ルッソ、
チエスワフ・メイエルなど。

その他にも何人かは不死者がいるかもしれない。しかし私の知って
いる不死者はその4人。

不死者相手には下手したら私は一撃で殺される。

柊かがみ「まずは支給品を調べておくっ」

私は支給品を調べる。使える物があるかどうか、戦闘を有利に進めるため

1つ目はランスだった。槍であり、攻撃力はどれほどなのか、わからない。だが、武器が手に入る事は運が良いのかも知れない…二つ目は防弾チョッキ。まあまあのアイテム。装備しておけば防御力はあがる。

ランダム支給品1つ〜3つだが、私へのランダム支給品は2つだった。

3つではなかったけど、一つじゃなかったのはよかったと思う。

私は歩いていると一人の男に気配を気付かれた。

カイン「少女だなっ！」

そこにいたのは一人の竜騎士。

私は竜騎士の戦い方で戦おうと思ったけど、相手も竜騎士。相手を屈服させてあげましょう…

柊かがみ「私は華麗な竜騎士様。あんたは誰？」

カイン「オレはカイン、カイン・ハイウインド！」

相手はカインと名乗った。私は知っている。

ファイナルファンタジーシリーズをやった事があるから

戦闘の仕方は恐らく、私の竜騎士スタイルと同じ竜騎士の戦い方。

槍を武器とし、ジャンプで戦う戦士型ジョブのはず…

カイン「必殺！！！！『稲妻突き』」

カインは槍に電撃の力を集め、
そして槍で攻撃を放つ。

私はその攻撃を喰らってしまった。
そして倒れた。

カイン「ただの雑魚だったか…」

約10分がたった…

柊かがみ「私はまだ、死んでないっ！！！」

柊かがみが何故か、復活し、デミルーンを放った。

それは不死者の力である、衰えたとはいえ、不死者は死んでも蘇るのだ。

デミルーンは柊かがみの必殺技の1つ。本来三日月刀で放つ技だが、柊かがみは熟練し、他の武器でも放つことが出来るようになった。

デミルーンの進化系の技は三日月刀などでは扱えないが

柊かがみ「カイン、あんたはしもべになってもらうわよ！」

カイン「はいっ、わかりました」

カインは柊かがみのしもべとなった。

柊かがみはとても強く、特に厄介なものかもしれない…

カインの運命はいかに…

【柊かがみ@らき すた】

「状態」：不死者、健康

「装備」：ランス（槍）、防弾チョッキ

「道具」：

「思考・状況」

基本的思考：対主催者側。マーダーは醜いものだと思うのでならな
いようにする

1．カインを手下にして自分を除く不死者を全滅させる

2．主催者を倒し、自分を普通の人間にする

3．人は極力殺さない。殺そうとする奴が居たら出来るだけ守る

【カイン@FF4】

「状態」：浅めの怪我

「装備」：槍（種類は不明）

「道具」：ランダム支給品0～2

「思考・状況」

かがみの捕虜、かがみについていくしかないだろう

日渡星司に襲う者共

せいじ「カメさんがいないっ」

僕は星司。日渡星司。星司はせいじと読む

僕は何故か、このバトルロワイヤルに来てしまった。

主催者の涼宮ユウヒの所為で来てしまった

僕の支給品は1つだけだった。拡声器である

どうしても死にそうな時に助けてもらう為にのみ使う

何故かは、これを使う「マörder」に襲われるといってもいいから

僕は歩いていた

カカロット「獲物だな……」

こいつはカカロット。姿かたちは心優しき格闘家の孫悟空なのだが、性格は違う。

冷酷で戦闘種族で人を平気で殺すような奴だ

カカロット以外にもせいじの近くに居たものが居た……

そいつらも邪悪な気を放っているようだ。

九尾ナルト「わしが殺す、ギャハハハハ」

こいつは九尾により、意思を奪われたナルト。

無尽蔵なチャクラ量を持っており、その能力はカカロットと同じかそれ以上なのかもしれない。

幽^マ助「殺す！」

こいつは取り付かれた、裏人格の男。
人を殺すマードーの一人

護一崎黒「いいもの見つけたぜえ、オレが殺してやる」

こいつは白い髪に白い肌。一護の裏人格である。

日渡星司はその4人に目を付けられてしまったのだ…

その後は言うまでも無い…

ぎゃああああああああああああああああああああああ
ああああああああああ
と拡声器の音が鳴り響いた…

【日渡星司@きらりんレボリューション】死亡

4人のスタンスは不明。

こべにを襲う少女

私はこべに。花咲こべに。

このバトルロワイヤルに参加させられたのです。

私は占いしかできないのに…

こべに「でも、支給品を見ればいいものがあるかもっ！」

私は支給品を見たのです。

アラララ。一つ目はまんじゅう。アミットさんが作った物らしいのです。

ほのかに海のおいがします。

二つ目はせいなるナイフ。多少の攻撃力を得られる。

力が弱い人にも使える万能な武器。

こべに「せいなるナイフ、かなり良い武器かもです」

三つ目は雲固めガス。雲を固めて乗れるようになる物。

くもを探さなきゃ効果が無い。かなり活用する物とはいえないのです。

でも、大活躍するかもです。

私が歩いていると、一人の少女の影が見えた。

髪型はきらりちゃんに似ている。

こべに「あそこにいるの、きらりちゃん？」

私はそう言った。

そして少しずつ近づいてゆく…

魔河「あれは…… アイドルっぽい女の子!？」

影古魔河は言った。

影古魔河は悪のアイドル。影の世界に生きる者であり、悪い人間だ。特に月島きらりのことを恨んでいる。

こべに「はてはて？、どうみてもきらりちゃんみたいです」

こべにの声が少し大きく、影古魔河にも聞こえたようだ…

魔河「お…俺を月島きらりに間違えると言う事は死んでもらうと言う事… 『シャドウ・スパイラル』」

影古魔河はこべにの影に入り込んだ。

そしてそのこべにの影へ何回も連続で切りつけてゆく……

この技で影に攻撃した場合、その影を持つ人間にも同じダメージが影響するのだ。

こべににとってはかなりの傷を負う状況。

こべに「何故か、傷を負って凄く痛いです。何故ですか？」

こべには痛がっていた。

こべに「このアミットまんじゅうを食べると少し傷が治るみたいです。食べます!」

私はまんじゅうを食べた。

ほのかな海の香りと癒しの力が体に入り込んでゆく…

でもその癒しの力よりも何故か負う傷が多いのです。

こべに「も…もうダメです……」

こべには倒れてしまった。

魔河はこべにの影から脱出した。

魔河「コイツの持ち物は…… 聖なるナイフと言つものか！… この程度の武器。俺にはいらな…… だが、食べ物はもらっておく……」

魔河はこべにの支給品の武器は奪わなかった。でも食料は奪っていた。

食料があるにこした事はない。

さらに相手が餓死して倒れる可能性があがるからだ…

だが、魔河は恐らく、こべにを殺したと思い込んでいた……

* * *

一人の少女が近くに歩いていた。

その名前はのえる。M i l k y W a yのメンバーの一人。

のえる「この近くで何か、戦闘が起きたかもな！」

のえるは状況を考えていた……
その予想が当たるのであった。

【花咲こべに@きらりん レボリューション】

「状態」：瀕死の状態。気絶

「装備」：聖なるナイフ

「道具」：デイバック、支給品一式（食料はなし）、雲固めガス@
ドラえもん

「思考」：

1. ????

【影古魔河@オリジナルキャラクター】

「状態」：健康

「装備」：

「道具」：デイバック、支給品一式、不明支給品1、3、こべにの
食料

「思考」：

1. 月島きらりん、その仲間を抹殺する

2. 主催者を殺し、願いをかなえる

3. その他の人は利用する。出来なければ殺す！

【雪野のえる@きらりん レボリューション】

「状態」：健康

「装備」：

「道具」：デイバック、支給品一式、不明支給品1、3

「思考」：

1. 近くで戦闘があった。その場所に行くかどうか

2. 友達きらりんのべるが心配。

3. 戦いには巻き込まれないようにする

結城リトの冒険

あたしは結城梨斗^{ゆづき りゅう}。実は女の子なの。
姿からしてひ弱な男の子っぽく見えるけど女の子。

髪はオレンジ色のショートヘア。服装は私立彩南高の服とスカート。

あたしは女の子だからスカートを履いている。

でも、あたしは……

さいれんじはるな
西連寺春菜と呼ばれる女の子が好きなんだっ……！！

リト「バトルロワイヤルか、まずは春菜ちゃんを探さないと……」

リトは支給品を見た。

1つ目はロケット。この道具は女の子のおっぱいを大きくする効果を持つ。

男の子には効果が無いが、あたしには効果は有る。だって女の子だもん

2つ目はボミオスの杖とかかかっている得体の知れない杖。
相手のスピードを遅く出来ますと書かれていた。

もう一つは重要そうじゃないアイテムだった。

あたしは早速探索した。
すると春菜ちゃんが近くにいた。

リト「!?!」

春菜「ここは何処だろう？」

春菜ちゃんはそわそわしていた。
それもそうだろう… 何処か知らない所。殺し合いをしなければいけない。

そんな状況で安心できるわけがないだろう…

あたしは春菜ちゃんの所に駆け寄った。

春菜「誰!!」

春菜ちゃんは誰かが来るのを見て、武器を向ける。
そしてあたしが春菜ちゃんに姿を見せた。

春菜「り、リトくん!」

リト「春菜ちゃん。そうだよ!」

春菜「でも、スカートをはいている。何故？」

春菜ちゃんへ、告白しよう。

あたしがずっと、春菜ちゃんの事が好きだったことを…

リト「春菜ちゃん! あたし…ずっと、春菜ちゃんの事が、す…
…す… スカートはいている理由は実はあたし、女の子だったから!」

あたしは思わず、好きだったとは言えなかった。
でも、あたしが実は女の子だと言う事は春菜ちゃんへ伝える事が出来た。

【結城梨斗@T。LOVEる・とらぶる・】

「状態」：一応健康

「装備」：

「道具」：デイベック、支給品一式、ロケットくん、ボミオスの杖、不明支給品1つ

「思考」：

1・春菜ちゃんに女の子だと告白は出来たが・・・

2・春菜ちゃんを絶対に守る

【西連寺春菜@T。LOVEる・とらぶる・】

「状態」：健康

「装備」：

「道具」：デイベック、支給品一式、不明支給品1〜3

「思考」：

1・リト君が女の子???

不運な男の話

私の名はハクオロ
一人の男だ。

ハクオロ「バトルロワイヤルか…… 私の勝利確率100%!!
何事も成功し続けてきたからな!!!」

ハクオロは勘違いしていた。

確かに今までは成功してきたと思う。

だが、これはバトルロワイヤル。ハクオロが主人公とは限らないからだ。

そこに一人の女の子が歩み寄る……

背は140cmも満たない小さい体。赤いセミロングの髪。

そしてセーラー服。

紛れもなく小学生。

私は女子高校生に殺される夢を見たことがあったが、小学生になら殺されないだろう……

ましてや、この子を守って行く事が使命なのかもしれない……

ゆたか「おじさん……誰？」

この女の子は恐らく私に話しかけてきたのだろう。

だが、私はまだ、おじさんと言う年ではない。

ハクオロ「私の名前はハクオロだ」

私はその女の子に名乗った。

その女の子は私をじっと見て、名前を覚えてくれた。

ゆたか「私、小早川ゆたか！」

この子はゆたかちゃんと言う女の子のようだ。

ハクオロ「私は貴方みたいな子をほっとけないです。守ります!!」

よし、いえた。この子を守っていけば安心だろう……

ゆたか「貴方は私が弱いと思っている……
いはずだッ!!!!
あんこくそうかつい 闇黒蒼火墜!!!!」
だが、貴方はもっと弱

ズガンッ!!

何故だ！ 私は負けないはずだ。

この1発で私を貫き、その威力は半端無い……

ハクオロ「私は死なない、死なないんだ!!!!」

ハクオロの言葉もむなしく、ゆたかのトドメの一撃が下された

【ハクオロ@うたわれるもの 死亡】

ゆたか「絶対、私は健康になる。その為には手を血に染めようとも……」

【小早川ゆたか@らき すた】

「状態」：健康

「装備」：

「道具」：デイベック、支給品一式、不明支給品1～3

「思考」：

1．主催者を倒し、願い（病弱の体から健康な体にする）

2．ステルスマードーとして身を潜める。使えない奴や自分に被害が蒙る場合は倒す

3．私は負けない。どんな手を使っても……

恐らく高校2年生。背は140cm未満138cm以上。ややオタク気味かもしれない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7884f/>

オールロワイヤル

2011年11月27日10時00分発行